

第3学年 道徳科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学 級：第3学年〇組（〇名）

場 所：3年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 主題名 法やきまりの意義 【内容項目 C 遵法精神、公德心】

2 資料名 「二通の手紙」（「あすを生きる3」日本文教出版）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について（道徳的価値観）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」では【内容項目 C 遵法精神、公德心】について、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」と示されている。

中学生の時期は、社会の中で生きているという自覚も深まり、法やきまりについてその意義をより理解することができるようになる一方で、法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、「少しくらいなら」という自分本位の考えを優先したりしてしまい、きまりを守れない場面も少なくない。そこで、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて自覚を促したい。また、自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、互いの自由意思が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解したうえで、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付けられるようにしたい。

(2) 価値に関わる生徒の実態について（生徒観）

本学級の生徒は、これまでの授業や学級活動、学校行事や部活動を通して、集団生活をするうえでルールやマナーを守ることが、安心して生活するための基盤であることを学んできた。しかし、「きまりは守らなくてはならない」という意識はあるものの、「そのきまりが何のためにあって、なぜそれを守らなければならないのか」ということを深く考えることは少ない。また、法やきまりは自分たちの自由を制限するものと否定的に捉えたり、「これくらいならば守らなくてもよい」と自分本位な考えに走ったりする生徒もいるものと考えられる。本授業を通じて、「きまりを守ることは、自分たちの生活を守ることである」という、きまりの意義を正しく理解できるようにし、主体的にきまりを守ろうとする意欲と態度を育てたい。

(3) 教材について（教材観）

本教材は、模範的な動物園の職員だった元さんが、幼い姉弟への同情心からきまりを破り、その結果、会社から懲戒処分を受けるという内容である。元さんの行動は、姉弟の母親から感謝されるなど、心情的には理解できるものである。しかし、一方で多くの人に迷惑をかけ、一つ間違えば大きな事故につながる行為でもあった。元さんがもらった母親からの「感謝の手紙」と動物園からの「懲戒処分の通告書」の二通の手紙を基に、きまりの意義について深く考えるとともに、きまりを遵守することの大切さ、きまりを守ることで規律ある安定した社会が実現することを理解し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲と態度につなげていきたい。

4 生徒の成長を促すための評価

(1) 本主題における生徒の学びの姿

これから迎える義務教育終了の節目にあたり、法やきまりは、自分たちを守るだけではなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを理解し、積極的に法やきまりについて考えられるようにする。さらに、法やきまりにはそれぞれに必ず成立の意義があるという理解を深め、それらを遵守し、義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする姿を目指す。

(2) 学びの姿につながる指導

きまりについての事前アンケートを行い、ねらいとする道徳的価値への気づきを図る。授業の展開部分で生徒一人ひとりがじっくりと考える時間を確保するため、事前に教材を読んで初発の感想を書くこととし、授業では、場面絵を使いながら教材のあらすじを確認する。最初の発問において個人のネームカードを用いて自分の考えを表示し、その理由や根拠、心情について発表する。きまりに関する様々な考えを比較する中で、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。第2発問は、第1発問でネームカードを貼った黒板上の横のゲージに縦のゲージを加え、同様の活動を行う。中心発問では、元さんが気付いたことに対して、個人で考えた後に、全体で意見を交流する。最後の発問では、きまりの意義について考えを深められるようにする。終末では、本時の学習を振り返り、道徳的価値の理解を今後につなげられるようにする。生徒一人ひとりが自分の考えをもてるように、書く活動は中心発問に対して考える場面と振り返りの場面の2回に限る。

(3) 生徒の学びの姿についての評価とフィードバック

本教材では、登場人物への自我関与を促すために、主題に関わる事前アンケートを実施し、導入でその結果を確かめる。この結果が生徒の規則に対する実態であり、現在の道徳的価値観と言える。元さんや動物園の職員の立場になって考える際には、生徒一人ひとりがネームカードによって考えを表示することとし、意図的指名に役立てる。中心発問では、個人で考えた後に挙手および意図的指名によって発言を促し、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかを見取る。また、きまりのもつ意味を考え、終末で本時の学習を振り返る際には、自身の事前アンケートの回答や初発の感想と比較し、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、これからの生き方について考えられているかについて、その変化や成長の様子を記述や発言から見取る。いずれも、評価した時点で個別に言葉がけを行い、意図的指名につなげる。生徒の振り返りの記述に対しては、評価の視点を基にコメントを記入して返却する。


5 本時のねらい

元さんの選択について考えることを通して、法やきまりにはそれぞれに必ず成立の意義があるという理解を深め、それらを遵守し、義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

6 本時の展開

補…補助発問

返…問い返し

	学習活動・主な発問	予想される生徒の思い	教師の支援と評価
導 入	1. 主題に関して考える。 <u>事前アンケートの結果を 確かめる。</u>  きまりは、どんなことがあ っても、守らなければなら ないものである。		・アンケートの結果を黒板に示し、学習へ の方向付けを図る。 「とても思う／やや思う／あまり思わな い／全く思わない」の割合と、それぞ れの考えの理由を紹介する。

<p>導 入</p>	<p>補 きまりがあることは私たちの生活の中でどのように役立っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がすべきことを判断する基準になる。 ・みんながきまりを守ることで、安心して過ごせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、法や規則等のきまりの意義を考えていくことを押さえる。
<p>展 開</p>	<p style="text-align: center;">学習のめあて：きまりの意義を考えよう</p> <p>2. 教材「二通の手紙」の内容を確かめ、元さんの立場になって考える。</p> <p>○あなたが元さんなら、幼い姉弟を動物園に入れるか。</p> <p>補 その「行為」を選んだ理由についての発表後に、気持ちの変化はなかったか考える。</p> <p>○あなたなら元さんの処分に納得ができるか。</p> <p>◎職を辞すと決断したとき、元さんが「気付いた」ことは何だろうか。</p>	<p>入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弟のその歳の誕生日は一生に一回しかないから、入れてあげないとかわいそう。 ・違反をすることで罰を受ける覚悟があれば入れてもよいと思う。 <p>入れない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし、事故が起きたら責任が取れない。 <p>納得できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、同じことを許すと大きな事故が起こるかもしれない。 <p>納得できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉弟のお母さんがこんなに喜んでいるのにこの処分は重過ぎる。 <p>・きまりを破ることによって引き起こされる問題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教材を一読し、初発の感想を記述する。元さんに着目し、きまりについて考えながら読むように促す。 ・黒板に横のゲージおよび両端に「入れる」「入れない」と書く。生徒一人ひとりにネームカードを貼るよう促し、個々の考えを可視化する。さらに、その行為を選んだ理由や根拠、心情についての多様な考えを知ることができるようにする。 ・発表後に、ネームカードを一度動かしてよいという機会を設ける。 ・先ほどネームカードを貼った黒板上の横のゲージに縦のゲージを加え、両端に「納得できる」「納得できない」と板書する。 ・第一発問で「入れる」という立場の生徒は元さんの立場で、「入れない」という立場なら、動物園職員の立場でネームカードを上下に動かし、意見を発表するようにする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>評価（発言）</p> <p>《視点①》 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。</p> <p>《視点②》 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・元さんの「この年になって初めて考えさせられることばかりです」「この二通の手紙のおかげですよ」という言葉から考

<p>展</p> <p>開</p>	<p>返 お母さんはこんなに喜んでくれているのになぜやめるのか。</p> <p>返 「停職処分」で済んだのに、なぜ職場を去らねばならないのか。</p> <p>返 元さんはどうして「晴れ晴れとした」顔でいられるのか。</p> <p>○動物園の規則を作った人は、規則にどんな思いを込めたのか。</p> <p>補 そもそも、規則やルールにはどんな意味があるのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の無責任な判断に対する<u>反省</u>をしている。 ・事故になっていたら、取り返しがつかなかった。 ・動物園に多大な<u>迷惑</u>をかけるところだった。 ・来園者の安全を守ることを忘れるなんて、動物園職員として<u>失格</u>だ。 ・自分と決まりの関わりについて身をもって学び、<u>覚悟</u>ができた。 ・安全、安心に楽しんでほしい。 ・子どもも大人も来園者全員に楽しめる場でありたい。 ・安全を保障する。 ・子どもの楽しさや夢を守る。 ・規則を守ることは、来園者の命を守ること。 	<p>えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいことと(きまりを守る)正しいことは違うのか、考えられるようにする。 <p>評価 (記述、発言)</p> <p>《視点④》 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元さんが破った規則は何のためにあるのかを再確認し、きまりの中にある思いやりに気付けるようにする。 <p>入園時刻…来園者に十分楽しんでもらうための時間の確保、職員の勤務時間保護者同伴…子どもの安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりの意義を考えられるようにする。 <p>評価 (発言)</p> <p>《視点②》 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。</p>
<p>終</p> <p>末</p>	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○この時間を通して、感じたことや考えたことはどんなことか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりの意義や込められた思いを考えると、その必要性を実感できた。みんなの意見を聞くうちに、単にきまりだから守るのではなく、「守るべきものだから守る」と考えて行動できるようになりたいと思った。 ・きまりの中には、納得がいかないものや時代にそぐわないものもあるため、守っていない時もある。しかし、どんなきまりにも成立した理由や人々の思いがあるので、もっと積極的にきまりについて考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりに対する今後の自分のあり方や、社会の中で生きる人間としてのあり方を考えられるようにする。 <p>評価 (記述)</p> <p>自己を振り返り、道徳的価値や人間としての生き方についての考えを深めているか。</p>

7 板書計画

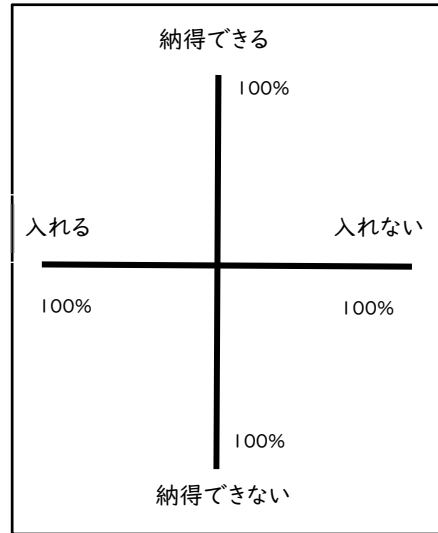
第 回

★きまりの意義を考えよう
 「二通の手紙」

アンケート
 結果

姉弟
 の絵

元さん
 の絵



入れる

入れない

納得できる

納得できない

弟の誕生日なの
 に、入れないのは
 かわいそう。
 何かあったとき
 に責任が取れな
 い。
 大きな事故につ
 ながりかねなか
 った。
 姉弟の母が感謝し
 ているのに、処分が
 重過ぎる。

二通の手紙
 を見つめる
 元さんの絵

「この年になって初めて考えさせられることばかりです」

「この二通の手紙のおかげですよ」

職を辞すと決断したとき、元さんが「気付いた」ことは何だろう。

- ・ 自分の無責任な行動に対する後悔と反省。
- ・ 来園者の安全を守れない自分は、動物園の職員として失格だ。

動物園の規則を作った人は、規則にどんな思いを込めたのか。

- ・ 誰もが安心、安全に楽しんでほしい。
- ・ 規則を守ることは、来園者の命を守ることになる。